

2022.

令和4年10月発行

伊勢の文化財通信紙 No.9

イセンドは、「いせ」と「送る」の英語「send」を組み合わせた造語です。



伊勢市の指定無形民俗文化財特集(その1)

伊勢市の御頭神事・獅子舞

御頭神事とは、獅子舞を含む民俗行事のことで、単に「神事(じんじ)」とも呼ばれています。舞は七段で構成され、獅子が八岐大蛇の役をし、日本神話になぞらえたさまざまな姿が舞として表現されています。

現在に伝わる御頭神事は、山田の産土神八社(現在は七社)で発祥したと考えられており、江戸時代の記録に神宮の神楽職たちが楽や舞を担当し、日を違えて近隣の村々に出かけていた様子が記されています。

それがやがて村々で御頭神事として行われるようになったと言われ、宮川下流の御園町高向や宮川北岸の磯町・村松町の漁村にも次第に広がっていき、今に伝わったとされています。

〔御頭神事〕 おかしらじんじ

所在地:御園町高向 指定年月日:昭和52年5月17日



国指定重要無形民俗文化財

高向大社の年中行事のうち毎年2月の第2土曜日に行われる例大祭です。大社の社記には、養和年間(1181~1182)の天候凶変や悪疫で飢饉が起こったため、悪疫を祓い清め、豊作を祈る祭りとして記されています。七越しの舞、悪霊祓いのフクメモノ、打ち祭りの御頭揚げなど、一年間の災いを払いのける神事として行われています。

〔東大淀の御頭神事〕 ひがしおいずのおかしらしんじ

所在地:東大淀町 指定年月日:昭和52年3月28日



三重県指定無形民俗文化財

東大淀の佐登奈加神社で世襲の神楽衆を中心に行われます。七起しの舞の奉納から始まり、続いて町内の約60カ所の辻で御頭が太刀をふって廻る悪魔払いが行われます。そして町内の一切の災厄を一身に背負った御頭は、猛烈な勢いで走って、それを海に捨てに行くヘッコメヤイの神事を行います。

〔獅子舞〕 ししまい

所在地:村松町 指定年月日:昭和33年12月22日



伊勢市指定無形民俗文化財

宇気比神社の祭礼として行われます。七起しの舞が祭礼の真髄とされ、午後からは町内の各辻々を巡って七起しの舞が行われます。その際、ハイバイという太刀を振るう所作で悪霊を祓います。

夜は打ち祭りといい、ツムギと呼ばれる大かがり火の周りで祭りを担う若者と御頭が猛烈な押し合いを繰り返します。

埋蔵文化財の照会については、開発場所を記した位置図を裏面記載の伊勢市情報戦略局文化政策課宛てにお送りください。確認し、折り返しご連絡します。文化財の保護のため、皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

〔官舎神社獅子舞〕 かんしゃじんじゃしまい

所在地:小俣町 指定年月日:平成元年6月8日

官舎神社境内及び22の氏子地区を8ヶ所に分けて順次行われます。御頭舞は地舞、七起舞、悪魔祓いの3つがあります。

かがり火を焚いた後の消し炭を魔除けにしたり、御頭につけてあるシデ（御幣）を子どもたちが取り合っ、お守りにしたりするなど、獅子の呪力による除災的要素が秘められています。



伊勢市指定無形民俗文化財

〔掛橋御頭舞〕 かけはしおかしまい

所在地:小俣町掛橋 指定年月日:平成元年6月8日

雷電神社、掛橋公民館前広場などで保存会が中心となって行われます。もともと御頭の株を持つ家が三軒あり、小俣近隣の村の舞の指導をするなどしています。獅子舞は地舞、七起舞、悪魔祓いの3つがあります。

地舞は「砂ぶるい」「四方かみ」「地すり」「あくび」という振りからなっており、七起舞とは違った舞が見られます。



伊勢市指定無形民俗文化財

その他の獅子舞

〔箕獅子舞〕 みじまい

所在地:二見町西 指定年月日:平成7年3月1日



箕獅子は、箕を2つ合わせて作られた獅子頭です。その作りは、頭がお米などをすくう農具の箕を2つ合わせて、赤い布を張ったものです。その縁は白と薄い青の縞模様になっており、唇のようです。「ふたつ」の「み」で「二見」の語呂合わせになっています。

目は縁起のよい橙が使われます。橙の中身をくり抜き、潰してお椀状にし、その中央に墨漬けのタンポを入れたものです。ギョロっとした目が愛らしいです。

鼻がヒョウタンで、その先には、梅の小枝が付けられます。そして、耳と舌はしゃもじでできています。胴着は、蚊帳を利用したもので、夫婦岩の絵が描かれています。

江戸時代初期、二見の神領復歸に尽力した第七代山田奉行花房志摩守をしのぶために始まったと言われています。箕を合わせた獅子については、『宮川夜話草』などの書物にも記されています。

伊勢市指定無形民俗文化財

